

2 森の中に入っていく

(4)草花を見よう

草花配置図(概要)

区分	調査日時	天気・温度	班
調査1	平成25年 6月29日10時	晴・24	I・II
調査2	平成25年 9月28日10時	晴・24	I・II
調査3	平成26年 3月15日10時	晴・11度28%	I・II
調査4	平成26年 5月17日10時	晴・25度・34.1%	I・II
調査5	平成26年 7月12日10時	晴・30度・61%	I・II

(注意)
調査地の森では、土地所有者及び市の同意無しに、動植物及び菌類の捕獲、採取、殺傷又は損傷はできません。

～森で見れた草花たちの一覧～

	名前	種類	観察季節	区域	雑木林視点の要約(雑木林との関わり)	頁
1	アカネ	多年草	春	全域	雑木林の林縁部で見られることもある。	23
2	オオバギボウシ	多年草	春	B	雑木林で見られることもある。	23
3	オニドコロ	多年草	春	B	雑木林の林縁部でよく見かける。	23
4	オニユリ	多年草	春	B	雑木林で見られることもある。	24
5	カタバミ	多年草	春	A	道端等で生える。繁茂し過ぎると林に悪影響もある。	24
6	ギボウシ	多年草	春	AB	雑木林で見られることもある。	24
7	キンミズヒキ	多年草	春	A	雑木林で比較的多く見られる野草である。	24
8	キンラン	多年草	春	C	典型的な雑木林の野草である。	24
9	ギンラン	多年草	春	C	典型的な雑木林の野草である。	25
10	クズ	多年草	春	全域	雑木林の林縁部で大量に繁茂することもある。	25
11	サルトリイバラ	多年草	春	B	雑木林で見られることもある。	25
12	シオデ	多年草	春	全域	雑木林の林縁部で見かける。	25
13	シラヤマギク	多年草	春	AB	雑木林の林縁部で見られることもある。	25
14	セイトカアワダチソウ	多年草	春	A	繁茂すると悪影響がある。(要注意外来生物)	25
15	タケニグサ	多年草	春	全域	雑木林の萌芽更新地等で先駆的に発芽成長する。	26
16	ツユクサ	多年草	春	全域	雑木林より、里地の植物である。	26
17	ドクダミ	多年草	春	A西B東	雑木林より、人家の周辺で見かける。	26
18	ナキリスゲ	多年草	春	A	平地から山地で見られ雑木林でも見られる。	26
19	ニガナ	多年草	春	B北	近年は林縁部に群生、本来里地の植物である。	26
20	ニワゼキショウ	一年草	春	A	帰化植物、雑木林ではあまり見かけない。	26
21	ヌスビトハギ	多年草	春	AB	雑木林で見られることもある。	27
22	ネジバナ	多年草	春	AB	雑木林でも見かけるが、草地でよく見かける。	27
23	ハキダメギク	一年草	春	B東	雑木林より、人家の周辺で見かける。	27
24	ハルジオン	一年草	春	AB	里地・人家の周辺で見かける。(要注意外来生物)	27
25	ヒメジョオン	一年草	春	全域	里地・人家の周辺で見かける。(要注意外来生物)	27
26	ヒメシダ	シダ植物	春	B南	雑木林より、人家の周辺で見かける。	27
27	ヒヨドリバナ	多年草	春	B南	雑木林で見ることがある。	28
28	フキ	多年草	春	A西B南	雑木林や里地・人家の周辺で見かける。	28
29	ヘビイチゴ	多年草	春	A	雑木林の林縁部で見られることもある。	28
30	ホウチャクソウ	多年草	春	C	雑木林で見られることもある。	28
31	ホタルブクロ	多年草	春	B東	雑木林で見かける。	28
32	ホトギス	多年草	春	B東	雑木林でも見かける。	28
33	ミョウガ	多年草	春	A南	畑地や人家周辺で見かける。	29
34	ヤクシソウ	二年草	春	B	里地、人家周辺で見かける。	29
35	ヤブカンゾウ	多年草	春	AC	雑木林でも見かける。	29

草花を見よう

平成25年6月から平成27年3月実施

	名前	種類	観察季節	区域	雑木林視点の要約(雑木林との関わり)	頁
36	ヤブマオ	多年草	春	B南	雑木林の林縁部で見られることもある。	29
37	ヤマユリ	多年草	春	B南C東	林縁部で比較的多く見ることができる。	29
38	ヨウシュヤマゴボウ	多年草	春	全域	外来種で、伐採跡地や人家の周辺等で見かける。	29
39	ヨメナ	多年草	春	B	雑木林の林縁部でよく見かける。	30
40	イヌトウバナ	多年草	夏	B	雑木林で見られることもある。	30
41	ノカンゾウ	多年草	夏	A	雑木林の林縁部で見かける。	30
42	ヒヨドリバナ	多年草	夏	AB	雑木林で見られることがある。	30
43	ヤブラン	多年草	夏	C	雑木林で見られることもある。	30
44	アキノノゲシ	一年草	秋	B	雑木林の林縁部でも見られる。	30
45	キンミズヒキ	多年草	秋	AB	雑木林で比較的多く見られる野草である。	31
46	ゲンノショウコ	多年草	秋	A	雑木林の林辺部で見かけることがある。	31
47	チカラシバ	多年草	秋	A	本来は草地や里地でよく見かける。	31
48	ツユクサ	多年草	秋	AB	雑木林より、里地の植物である。	31
49	ヒガンバナ	多年草	秋	B	土手や畔等の他に雑木林の林縁でも見られる。	31
50	ミズヒキ	多年草	秋	全域	雑木林で比較的多く見られる野草である。	31

～森で見れた草花たちの特徴や写真～

草	1	H26年	春	1	種類	アカネ
						
班名	調査日	区域				
I	26.5.17	B				
特徴	つる性の多年草。三角状の卵形の葉が4つに輪生。開花(8～10月白色)。茜色は、根を利用した染料(暗い赤色)。赤根からアカネと呼ぶ。					
雑木林視点	雑木林で見られることもある。山野に咲くことが多い。雑木林では林縁部で成育する。					

草	2-1	H26年	春	2	種類	オオバギボウシ
						
班名	調査日	区域				
II	26.5.17	B				
特徴	多年草。高さ50～100cm。葉の長さは30～40cm、幅は10～15cmくらいになる。日陰でも育つ宿根草。葉脈の流れが流線形で美しい。					
雑木林視点	雑木林で見られることもある。					

草	2-2	H25年	春	1	種類	オオバギボウシ
						
班名	調査日	区域				
II	25.6.29	B				
特徴	オオバギボウシの開花は6月から7月で花色は紫色か白色である。					
雑木林視点	雑木林で見られることもある。					

草	3	H26年	春	3	種類	オニドコロ
						
班名	調査日	区域				
I	26.5.17	B				
特徴	つる性の多年草。葉は互生で円心形～三角状心形。開花(7月～8月薄緑色の小さな花)根には毒素がある。					
雑木林視点	雑木林の林縁部でよく見かける。					

草 4 H25年 春 4 種類 オニユリ



班名	調査日	区域
II	25.6.29	B
特徴	葉は披針形で先端はゆるく尖る。草丈1～2mとなる大型のユリ。球根植物。開花(7-8月)香りのある橙色の花)種をつくらず暗紫色のムカゴという珠芽を葉の付け根につけ、これがこぼれて繁殖する。	
雑木林視点	雑木林で見ることある。	

草 5 H26年 春 4 種類 カタバミ



班名	調査日	区域
II	26.5.17	A
特徴	多年草。花期4～10月、5弁の黄色い花。クローバーに似た葉。葉が夜に閉じるためか、葉の片隅がかじられた様に見えるから名がついたという説がある。	
雑木林視点	家の周囲や道端で生え、茎は地をはって広がる。雑木林での繁茂は他の草本類の成長に悪影響がでることある。	

草 6-1 H26年 春 5 種類 ギボウシ



班名	調査日	区域
I	26.5.17	A
特徴	多年草。高さ30～40cm。日陰でも育つ宿根草。葉脈の流れが流線形で美しい。	
雑木林視点	雑木林で見ることある。	

草 6-2 H25年 春 5 種類 ギボウシ



班名	調査日	区域
I	25.6.29	AB
特徴	ギボウシの花は6月から7月に咲き、花色は紫色か白色である。	
雑木林視点	雑木林で見ることある。	

草 7 H26年 春 6 種類 キンミズヒキ



班名	調査日	区域
I	26.5.17	A
特徴	多年草。草丈30～80cm。葉は羽状。開花(7月～10月)0.7～1cmの花弁5枚の小さな花が穂状に咲く。バラ科に属する。ミズヒキソウはタデ科である。	
雑木林視点	雑木林で比較的多く見れる野草である。	

草 8 H26年 春 7 種類 キンラン



班名	調査日	区域
I II	26.5.17	C
特徴	多年草。高さ30～70cm。葉がチューリップの葉が何段も重なったようである。開花(4～6月)金色)	
雑木林視点	典型的な雑木林の野草である。絶滅危惧種(環境省)	

草	9	H26年	春	8	種類	ギンラン
						
班名	II	調査日	26.5.17	区域	C	
特徴	<p>多年草。高さ10～30cm。花期4～5月、白花、花は全開せず半開で終わる花。白色の花ですが、黄金色のキンランに対比してギンランと名付けられた。</p>					
雑木林視点	<p>キンラン同様に雑木林の典型的な野草である。絶滅危惧Ⅱ類(東京都)</p>					

草	11	H26年	春	9	種類	サルトリイバラ
						
班名	I	調査日	26.5.17	区域	B	
特徴	<p>つる性の多年草。茎に棘があり。1～3mほど這うように伸びていく。藪になったところに猿が追い込まれて動けなくなってしまうということから呼ばれる。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林で見られることもある。</p>					

草	13	H26年	春	11	種類	シラヤマギク
						
班名	I	調査日	26.5.17	区域	AB	
特徴	<p>多年草。高さ1m程度。花期8～10月、舌状の花は白色。葉は心形で先は鋭くとがる。別名ムコナ(婿菜)</p>					
雑木林視点	<p>山地の乾いた草地や道端等に生える。雑木林の林縁部の明るい場所でも見られる。</p>					

草	10	H25年	春	7	種類	クズ
						
班名	I	調査日	25.6.29	区域	全域	
特徴	<p>つる性の多年草。秋の七草の一つ。葛。根を用いて食品の葛粉が作られる。開花(8-9月、房状の紫色) 葉の裏の白さが目立つことから裏見草(うらみぐさ)ともいう。</p>					
雑木林視点	<p>ヤブカラシやヘクソカズラ等のように雑木林の林縁部で大量に繁茂することもある。</p>					

草	12	H25年	春	8	種類	シオデ
						
班名	I	調査日	25.6.29	区域	全域	
特徴	<p>多年草。つる性植物。葉はハート型で5-15cm。線香花火のような変わった形の花が咲く。開花(5-7月淡黄緑色) 牛尾菜</p>					
雑木林視点	<p>雑木林の林縁部で見かける。</p>					

草	14	H26年	春	12	種類	セイタカアワダチソウ
						
班名	I II	調査日	26.5.17	区域	A	
特徴	<p>多年草。高さ1～3m、5mを超える場合もある。花期10～11月、大きな傘形の黄色い花序。葉は被針形で長さ20cm。地下茎をはりめぐらして増える。果実が白く泡立っているように見える。</p>					
雑木林視点	<p>一般的に荒れた草地、河原の土手に大群生し、高さ2.5mにもなる。要注意外来生物リスト(環境省)に指定されている。</p>					

草 15 H25年 春 10 種類 タケニグサ



班名	調査日	区域
I・II	25.6.29	全域

特徴 多年草。高さ1~2m。葉は10~30cmと大きく、菊の葉に似ている。竹と一緒に煮ると軟らかくなって加工しやすいとの話もある。

雑木林視点 雑木林で見ることがある。伐採跡地や萌芽更新地で先駆的に発芽成長する。

草 17 H25年 春 12 種類 ドグダミ



班名	調査日	区域
II	25.6.29	A西B東

特徴 多年草。高さ20~40cm。葉は先の尖ったハート形。花びらのように見える白い部分は、実は総苞片で花びらではなく、中央の淡緑色の部分が花である。開花(5~7月淡緑色)

雑木林視点 雑木林より、人家の周辺で見かける。

草 19 H25年 春 13 種類 ニガナ



班名	調査日	区域
I	25.6.29	B北

特徴 多年草。高さ40~70cm。茎は白汁があり苦味が多いことから名の由来になっている。苦菜。茎の先端で枝分かかれし1.5cmぐらいの黄色の頭花をつける。開花(5~7月黄色)

雑木林視点 近年は雑木林の林縁部に群生するが、本来は里地の植物である。

草 16 H25年 春 11 種類 ツルクサ



班名	調査日	区域
II	25.6.29	全域

特徴 多年草。高さは15~50cmで直立することはない、茎は地面を這う。花弁は3枚の1.5~2cmほどの青い花をつける。開花(6~9月青色)朝咲いた花が昼しぼむことが朝露を連想させることから「露草」と名付けられたという説がある。

雑木林視点 雑木林より、里地の植物である。

草 18 H26年 春 15 種類 ナキリスゲ



班名	調査日	区域
I	26.5.17	A

特徴 多年草。高さ40cm程度。花期8~10月葉は固く線形。長い柄を1~3本だし小さい穂を多数つける。名は菜切り菅の意味で葉で切れるということから名づけられた。

雑木林視点 平地から山地の疎林で見られ、多摩の雑木林の林床でも見られる。

草 20 H26年 春 17 種類 ニワゼキショウ



班名	調査日	区域
II	26.5.17	A

特徴 一年草。高さ10~20cm。花期5~6月、中心部は黄色で6弁花は白または紅紫色で紫色の筋がある。葉は線形。花が石菖に似ていることから名がついた。

雑木林視点 北米より到来した帰化植物、日当たりのよい草地や道端に生え、雑木林ではあまり見かけない。

草	21	H25年	春	14	種類	ヌスビトハギ
						
班名	調査日	区域				
I・II	25.6.29	AB				
特徴	<p>多年草。高さ0.6～1.2m。開花(7月～9月)薄紅色の3mm程度の小さな花が茎先にまばらに咲く。果実が盗人の忍び足の形に似ているとの説もある。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林で見ることある。</p>					

草	23	H25年	春	16	種類	ハキダメギク
						
班名	調査日	区域				
II	25.6.29	B東				
特徴	<p>一年草。高さ50cm程度。葉は薄緑の卵形で浅い鋸歯を持つ。5mm程度の小さな花を咲かせる。開花(6-11月) 植物学者が掃き溜めで発見したのでこの名前がついたとも言われる。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林より、人家の周辺で見かける。</p>					

草	25	H25年	春	17	種類	ヒメジョオン
						
班名	調査日	区域				
I・II	25.6.29	全域				
特徴	<p>一年草。高さが50-100cm。細長い葉。マーガレットの花の白い部分が細かくなったような花を咲かせる。似ているハルジオンは大きめで蕾が下を向いている。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林や里地・人家の周辺で見かける。要注意外来生物リスト(環境省)に指定されている。</p>					

草	22	H25年	春	15	種類	ネジバナ
						
班名	調査日	区域				
I	25.6.29	AB				
特徴	<p>多年草。高さ5-20cm。葉は長さ5-20cm幅3-10mmの線状形で先はとがる。小さなピンク色の花が20個以上らせん状に咲く。開花(6-9月淡紅色) ネジリバナ。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林でも見かけるが、草地(造成地)でよく見かける。</p>					

草	24	H26年	春	19	種類	ハルジオン
						
班名	調査日	区域				
I II	26.5.17	AB				
特徴	<p>一年草。高さが50-100cm。細長い葉。マーガレットの花の白い部分が細かくなったような花を咲かせる。茎は中空で葉が茎を抱くように付く。似ているヒメジョオンは茎が中空でなく葉は茎を抱かない。</p>					
雑木林視点	<p>里地・人家の周辺で見かける。雑木林に侵入し林縁部で大量に繁茂することもある。要注意外来生物リスト(環境省)に指定されている。</p>					

草	26	H25年	春	18	種類	ヒメシダ
						
班名	調査日	区域				
II	25.6.29	B南				
特徴	<p>シダ植物。高さ30-50cm。湿原や浅い水湿地に生育する。地下茎があつて群生して群落を形成する。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林より、人家の周辺で見かける。</p>					

草	27	H25年	春	19	種類	ヒヨドリバナ
						
班名	調査日	区域				
I・II	25.6.29	B南				
特徴	高さ1～2mの多年草。茎が上部で枝分かれし散房状の花をつける。開花(8-10月白色)ヒヨドリの鳴く頃に花が咲くことから名付けられたとも言われる。オトコエシにも似ているが花柱の先が長く伸び出している。					
雑木林視点	雑木林で見ることがある。					

草	28	H25年	春	20	種類	フキ
						
班名	調査日	区域				
II	25.6.29	A西B南				
特徴	多年草。高さ10-80cm。柄の長い大きな丸い葉。茎は地上には伸びず、地中で地下茎となり横に伸びる。フキノトウは、早春に花茎が伸び出したもの、キャラフキは柄の部分を用いる。					
雑木林視点	雑木林や里地・人家の周辺で見かける。					

草	29	H26年	春	20	種類	ヘビイチゴ
						
班名	調査日	区域				
II	26.5.17	A				
特徴	多年草。花期4～6月、花弁5つ、黄色。花後に光沢のない赤色の果実を付ける。蛇しか食べないイチゴだという由来もある。					
雑木林視点	田の畔や道端などのやや湿った場所に生える。雑木林の林縁で見れることもある。					

草	30	H26年	春	21	種類	ホウチャクソウ
						
班名	調査日	区域				
I	26.5.17	C				
特徴	多年草。高さ30～60cm。袋状の花が2つづら下がって咲く。あまり開かない。花が軒に吊り下げられる宝鏡に似ていることから呼ばれる。開花(4～5月白色)					
雑木林視点	雑木林で見ることがある。林床部で生えている。					

草	31	H25年	春	21	種類	ホタルブクロ
						
班名	調査日	区域				
I	25.6.29	B東				
特徴	多年草。高さ10-80cm。葉身は長さ5-8cm幅1-4cmの三角状卵形～針形。長さ4～5cmの大きな鐘形の花をつける。開花(5-8月淡紅紫色または白色で濃色の斑点あり)					
雑木林視点	雑木林で見かける。					

草	32	H25年	春	22	種類	ホトギス
						
班名	調査日	区域				
I	25.6.29	B東				
特徴	多年草。高さ40-70cm。葉は長楕円形。3cmぐらいのロウト形の花。開花(7-10月外側は白色で内側全体に紅紫色の斑点あり)斑点が野鳥のホトギスの胸の斑点に似ていることから「ホトギス」の名になったという説がある。					
雑木林視点	雑木林でも見かける。					

草	33	H25年	春	23	種類	ミョウガ
						
班名	調査日	区域				
II	25.6.29	A南				
特徴	多年草。高さ40-100cm。葉は細長い楕円形で先端は尖る。食しているミョウガはこの花の蕾である。幼茎が伸びて淡黄色の花が咲く。開花(7-11月淡黄色)					
雑木林視点	畑地や人家周辺で見かける。					

草	35	H25年	春	25	種類	ヤブカンゾウ
						
班名	調査日	区域				
II	25.6.29	AC				
特徴	多年草。葉は40-60cmの広線形。葉の間から80-100cmの花茎をだし上部に八重咲きの黄赤色の花を数個つける。開花(7-8月黄赤色)美しい花を見ていると物も忘れることから忘れ草と言う説がある。					
雑木林視点	雑木林でも見かける。					

草	37	H25年	春	27	種類	ヤマユリ
						
班名	調査日	区域				
I・II	25.6.29	B南C東				
特徴	球根植物。高さ1~1.5m。発芽から開花まで5年以上かかる。花は白色に黄色や紅色の斑点があるものもある。開花(7~8月白色)					
雑木林視点	雑木林で比較的多く見ることができる。林縁部に生える。					

草	34	H25年	春	24	種類	ヤクシソウ
						
班名	調査日	区域				
II	25.6.29	B				
特徴	2年草。高さ30-120 cm。葉は長さ5-10 cm幅2-5 cmの長楕円形。茎や葉を折ると苦味のある白い液体を出す。開花(9-11月黄色)薬師草。葉の形が薬師如来の光背の形に似ているからとの説もあり。					
雑木林視点	里地、人家周辺で見かける。					

草	36	H25年	春	26	種類	ヤブマオ
						
班名	調査日	区域				
I	25.6.29	B南				
特徴	多年草。高さ1mぐらい。細かい葉脈。長い尾状に花をつける。開花(8月~9月白色)イラクサと似ているが葉と茎に棘がない。					
雑木林視点	雑木林の林縁部で見られることもある。					

草	38	H25年	春	28	種類	ヨウシュヤマゴボウ
						
班名	調査日	区域				
II	25.6.29	全域				
特徴	多年草。高さ1-2m。茎や葉は赤紫色を帯びる。葉はやや多肉で長さ10-30cmの広楕円形。花は淡紅色で穂状につける。開花(6-9月淡紅色)根には毒素がある。					
雑木林視点	外来種で、伐採跡地や里地、人家の周辺で見かける。					

草	39	H26年	春	28	種類	ヨメナ
						
班名	調査日	区域				
I	26.5.17	B				
特徴	<p>多年草。高さ50～100cm。花期7～10月、紫色か白色の花。葉は卵状楕円形で8～10cm。地下茎がある。ムコナ(婿菜)と呼ばれるシラヤマギクとの対比でヨメナ(嫁菜)と名付けられたとも言われる。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林林縁でよく見られるが、主に山野の湿った所や道端に生える。</p>					

草	41	H26年	夏	2	種類	ノカンゾウ
						
班名	調査日	区域				
II	26.7.12	A				
特徴	<p>多年草。葉は40-70cmの広線形。葉の間から約60cmの花茎をだし上部にラッパ状の花を数個つける。開花(7-8月)花色は橙色のものから赤色の強いものがある。ヤブカンゾウは似ているがやや大型で花が八重咲きである。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林の林縁で見かける。</p>					

草	43	H26年	夏	4	種類	ヤブラン
						
班名	調査日	区域				
II	26.7.12	C				
特徴	<p>多年草。高さ30～60cm。葉は線形。穂状に小さな花を多数つける。開花(8～10月紫色)</p>					
雑木林視点	<p>雑木林で見られることもある。</p>					

草	40	H26年	夏	1	種類	イヌトウバナ
						
班名	調査日	区域				
II	26.7.12	B				
特徴	<p>多年草。8～10月白色の花。高さ20～50cm。塔型の花穂のトウバナ(塔花)に似て非なることからイヌトウバナとする説もあり。トウバナは薄紅紫色で5～8月開花。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林で見られることもある。</p>					

草	42	H26年	夏	3	種類	ヒヨドリバナ
						
班名	調査日	区域				
I	26.7.12	A B				
特徴	<p>高さ1～2mの多年草。茎が上部で枝分かかれし散房状の花をつける。開花(8-10月白色)ヒヨドリの鳴く頃に花が咲くことから名付けられたとも言われる。オトコエシにも似ているが花柱の先が長く伸び出している。</p>					
雑木林視点	<p>雑木林で見られることがある。</p>					

草	44	H25年	秋	1	種類	アキノノゲシ
						
班名	調査日	区域				
II	25.9.28	B				
特徴	<p>1年草または越年草。草丈は2m。葉の下部は剣のように伸びる。径2cm位の白い花が咲く。実は放射状の白い冠毛を持つ。名は春に咲くノゲシに似た花で秋に咲くことに由来する。</p>					
雑木林視点	<p>本来は里地、荒地でよく見かける。しかし近年は日当たりの良い雑木林の林縁でも見られる。</p>					

草花を見よう

平成25年6月から平成27年3月実施

草	45	H25年	秋	2	種類	キンミズヒキ
						

班名	調査日	区域
I	25.9.28	AB
特徴	多年草。草丈30～80cm。葉は羽状。開花(7月～10月)0.7～1cmの花弁5枚の小さな花が穂状に咲く。バラ科に属する。ミズヒキはタデ科である。	
雑木林視点	雑木林で比較的多く見れる野草である。	

草	47	H25年	秋	5	種類	チカラシバ
						

班名	調査日	区域
II	25.9.28	A
特徴	多年草。草丈50～70cm。葉は長さ30～70cm、幅4cm～7cmの刀線形で硬く、表面はざらつく。茎頂に長さ10cm～20cm、ネコジャラシに似た円柱形の花序。長さ2cm位の暗紫色の剛毛が生えた小穂を多数つける。	
雑木林視点	本来は草地や里地でよく見かける。しかし近年は日当たりの良い雑木林の林縁でも見られる。	

草	49	H25年	秋	7	種類	ヒガンバナ
						

班名	調査日	区域
II	25.9.28	B
特徴	多年草。秋の彼岸の頃に花茎がすっと高さ30～50cm伸び先端に5～8個の花(赤・白等)を咲かす。まとまって咲くので全体が線香花火のように見える。花が終わってから線状の葉が30～50cm伸びる。別名マンジュシャゲともいう。	
雑木林視点	本来は里地や草地の植物で田の畔や土手等に群生する。近年は雑木林の林縁でも見られる。中国から渡来した帰化植物。	

草	46	H25年	秋	3	種類	ゲンノショウコ
						

班名	調査日	区域
II	25.9.28	A
特徴	多年草。草丈30～40cm。葉は柄を持ち幅3～5cm3～5列に深裂。花期(7月～11月)2個つき、径1～1.5cm、淡紅から紅紫色。現の証拠の当て字もある。	
雑木林視点	雑木林の林辺部で見かけることがある。	

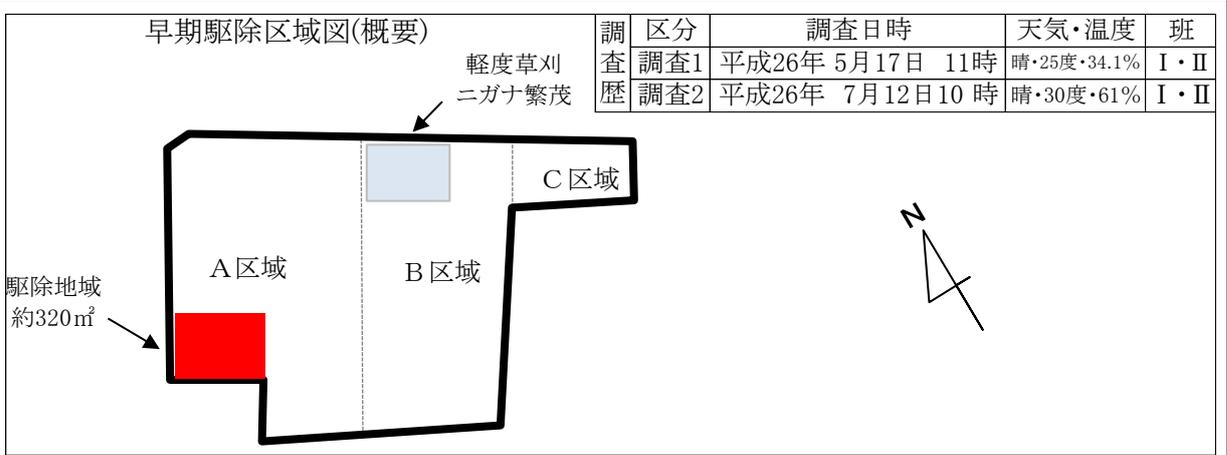
草	48	H25年	秋	6	種類	ツユクサ
						

班名	調査日	区域
II	25.9.28	AB
特徴	多年草。草丈15～50cmで直立することはなく、茎は地面を這う。花弁は3枚の1.5～2cmほどの青い花をつける。開花(6-9月青色)朝咲いた花が昼しぼむことが朝露を連想させることから「露草」と名付けられたという説がある。	
雑木林視点	雑木林より、里地の植物である。	

草	50	H25年	秋	8	種類	ミズヒキ
						

班名	調査日	区域
II	25.9.28	全域
特徴	多年草。高さ30～80cm。葉に鼻緒のようなV字型の模様がある。紅白の20～40cm伸びた花穂が水引に似ていることから名が付いた。開花(8～11月紅白色)	
雑木林視点	雑木林で比較的多く見ることができ。どちらかという、林床部で生えている。	

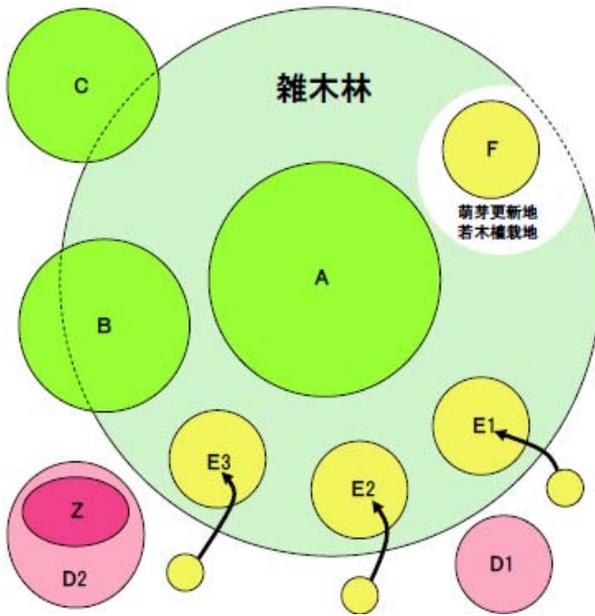
2 森の中に入ってこよう
 (5)要注意外来生物等の同定と早期駆除体験をしてみよう



要注意外来生物等の同定と早期駆除体験をしてみよう

平成26年5月から平成26年7月実施

①特定外来植物・要注意外来植物等の雑木林との関わり



- A 典型的な雑木林の樹木・草・キノコ
- B 雑木林で比較的多くみることが出来る樹木・草・キノコ
- C 雑木林で見ることもある樹木・草・キノコ
- D1 園芸植物など本来雑木林で見ることがない 樹木・草・キノコ
- D2 外来種など本来雑木林で見ることがない樹木・草・キノコ
- E1 常緑樹木で雑木林に侵入し常緑樹林に遷移してしまう可能性がある樹木
- E2 常緑低木で雑木林に侵入し、雑木林の林床を被圧してしまう可能性のある樹木
- E3 雑木林の景観を著しく損なう可能性のある樹木・草
- F 萌芽更新地・若木植栽地で、つる性植物等の繁茂で成育に悪影響のある樹木・草
- Z 特定外来植物・要注意外来植物で雑木林の生態系に悪影響を及ぼす可能性のある樹木・草・キノコ

②要注意外来生物リスト(環境省)に指定された植物の中で次の6種を早期駆除の対象とした。
 オオブタクサ・ブタクサ・セイタカアワダチソウ・ハルジオン・ヒメジョオン

I 班 早期駆除対象種と本数(平成26年 5月17日実施)

1	オオブタクサ	0	2	ブタクサ	0	3	セイタカアワダチソウ	200
4	ハルジオン	248	5	ヒメジョオン	150	6		
								598

II 班 早期駆除対象種と本数(平成26年 5月17日実施)

1	オオブタクサ	0	2	ブタクサ	0	3	セイタカアワダチソウ	77
4	ハルジオン	210	5	ヒメジョオン	282	6		
								569

A I II 班合計((平成26年 5月17日実施)

1	オオブタクサ	0	2	ブタクサ	0	3	セイタカアワダチソウ	277
4	ハルジオン	458	5	ヒメジョオン	432	6		0
								1,167
								3.65本/m ²

○セイタカアワダチソウは林縁部が多い。

○ハルジオン・ヒメジョオンは林中にも侵略している。

○キンラン・ギンランはC地区に10株以上あった。

B I II 班合同 駆除対象種と本数(平成26年 7月12日実施)

1	オオブタクサ	0	2	ブタクサ		3	セイタカアワダチソウ	157
4	ハルジオン	0	5	ヒメジョオン	439	6		0
								596
								1.86本/m ²

総合計(A+B)

1	オオブタクサ	0	2	ブタクサ	0	3	セイタカアワダチソウ	434
4	ハルジオン	458	5	ヒメジョオン	871	6		0
								1,763

③セイタカアワダチソウ・ハルジオン・ヒメジョオンの同定

○セイタカアワダチソウの特徴

多年草。高さ1～3m、5m超える場合もある。花期10～11月、大きな傘形の黄色い花序。葉は被針形で長さ20cm。地下茎をはりめぐらして増える。果実が白く泡立っているように見える。一般的に荒れた草地、河原の土手に大群生し、高さ2.5mにもなる。要注意外来生物リスト（環境省）に指定されている。



地下茎が伸びている。



上部の茎は紫色を帯びている。



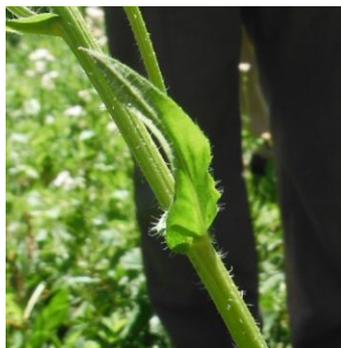
全体の様子

○ハルジオン・ヒメジョオンの特徴

一年草。高さが50～100cm。細長い葉。マーガレットの花の白い部分が細くなったような花を咲かせる。ハルジオンの方が先に咲く。葉は茎を抱くように付く。似ているヒメジョオンは蕾が上を向いている。葉は茎を抱かない。ともに里地・人家の周辺で見かける。雑木林に侵入し林縁部で大量に繁茂することもある。要注意外来生物リスト（環境省）に指定されている。



蕾は上を向いている。
(ヒメジョオン)



葉は茎を抱くように付く。
(ハルジオン)



咲いてる様子
ここではヒメジョオンが多いようだ。

2 森の中に入っけいこう

(6)昆虫を見よう

昆虫を見よう

平成25年6月から平成27年3月実施

昆虫の発見箇所図(概要)	区分	調査日時	天気・温度	班
	調査1	平成25年 6月29日10時	晴・24	I・II
	調査2	平成25年 9月28日10時	晴・24	I・II
	調査3	平成26年 3月15日10時	晴・11度28%	I・II
	調査4	平成26年 7月12日10時	晴・30度61%	I・II

(注意)
調査地の森では、土地所有者及び市の同意無しに、動植物及び菌類の捕獲、採取、殺傷又は損傷はできません。

～春の森のようす(昆虫)～

昆虫	1	H26年	春	4	種類	アカシジミ
班名	調査日	発見区域				
I	26.5.17	A				
特徴	翅長15～25mm前後。6～7月に現れる。翅は橙色、翅裏には白帯で縁取られた橙色の帯が縦に入る。					
雑木林視点	幼虫は雑木林の構成樹木であるコナラやクヌギ等の新芽を好む。クリやヒヨドリバナ等の花に吸蜜。雑木林でよく見かける。					

昆虫	2	H26年	春	1	種類	エサキモンキツノカメムシ
班名	調査日	発見区域				
I	26.5.17	B				
特徴	体長10mm程度。5～10月に現れる。クリーム色のハートマーク模様が特徴。他のカメムシ同様に悪臭を放つ時がある。					
雑木林視点	雑木林や山地の樹林地のミズギ、サンショ等の樹木の葉や茎の汁を吸いながら生息する。					

昆虫	3	H26年	春	3	種類	クロアゲハ
班名	調査日	発見区域				
I	26.5.17	B				
特徴	翅長50～70mm前後。5～8月に現れる。翅は黒色、前翅の鱗粉、後翅裏外縁に赤斑が並ぶ。ジャコウアゲハやカラスアゲハと比べると後翅の尾状突起が太く短い。					
雑木林視点	ツツジやクサギ(臭木)やヒガンバナの花等に吸蜜。雑木林で見られることもある。					

昆虫	4	H25年	春	1	種類	ササグモとアリ
班名	調査日	発見区域				
II	25.6.29	B				
特徴	体長10mm前後。5～8月に見れる。体色は白っぽい色に褐色の縦筋が入る。足は緑色を帯びる。徘徊性で、網を張らず、歩き回って餌(昆虫等の肉食)をとる。					
雑木林視点	雑木林等の林縁部の草地で生息する。					

昆虫	5	H26年	春	2	種類	ダイミョウセセリ
----	---	------	---	---	----	----------



班名	調査日	発見区域
I	26.5.17	B
特徴	翅長20mm前後。5～9月に現れる。翅は黒色から薄茶色で、前の翅の裏表に大小の白い斑点がある。セセリチョウの中では大きいので「大名」の名がついたとの説もある。	
雑木林視点	雑木林の林縁、市街地の緑地等で見える。幼虫の食草はヤマイモの葉、成虫はスイカズラ、オカトラノオ、イボタノキの花等で吸蜜する。	

昆虫	6	H25年	春	2	種類	ハグロトンボ
----	---	------	---	---	----	--------



班名	調査日	発見区域
I	25.6.29	B
特徴	体長50～70mm。成虫は5-10月。羽も胴体も黒色。オスの胴体は緑色かかっている。チョウのようにひらひらと舞うように羽ばたいたり羽根を立てた状態で休んだりする。	
雑木林視点	羽化後の若い個体は水域から離れて雑木林等の林の中で生活する。成熟すると再び水域に戻り繁殖する。	

～夏の森のようす(昆虫)～

昆虫	7	H26年	夏	1	種類	カブトムシ
----	---	------	---	---	----	-------



班名	調査日	発見区域
II	26.7.12	B
特徴	体長30～50mm程度。6～8月に現れる。成虫はクヌギやコナラの樹液を食べる。卵→幼虫→さなぎ→成虫 幼虫は腐葉土をトンネル状に食べて進む。	
雑木林視点	雑木林に生息する代表的な甲虫類である。落ち葉の堆積場を繁殖の場として利用している。	

昆虫	8	H26年	夏	2	種類	キチョウ
----	---	------	---	---	----	------



班名	調査日	発見区域
II	26.7.12	AB
特徴	翅長20～27mm前後。3～11月に現れる。翅は黄色、翅の表側は黒縁、裏側には小さな黒点の模様が見られる。成虫越冬する。年に4～5回ふ化する。	
雑木林視点	平地から低山地の林縁、河原などに生息するが、市街地の公園や人家の庭でも見られる。	

昆虫	9	H26年	夏	3	種類	クダマキモドキ
----	---	------	---	---	----	---------



班名	調査日	発見区域
II	26.7.12	A
特徴	体長40～60mm程度。8～11月に現れる。体は緑色のキリギリスの仲間。葉を食べる。卵で越冬する。	
雑木林視点	草地に生息するツユムシと類似種である。主に雑木林の樹上に生息する。	

昆虫	10	H26年	夏	4	種類	クビキリギリス
----	----	------	---	---	----	---------



班名	調査日	発見区域
I	26.7.12	AB
特徴	体長50～60mm程度。5～9月に現れる。緑色又は褐色のキリギリスの仲間。口の周りが赤い。成虫で越冬する。植物の穂や若芽を食べる。写真は幼虫。	
雑木林視点	明るい草地や雑木林の林縁周辺に生息する。	

昆虫	11	H26年	夏	5	種類	シオヤアブ
						
班名	調査日	発見区域				
II	26.7.12	AB				
特徴	体長20～30mm程度。6～9月に現れる。日当たりの良いところを好む。他の昆虫を捕えて食べる。写真は交尾中のもの。					
雑木林視点	草地や雑木林の周辺、日当たりの良い場所に生息する。幼虫は土中や朽木に棲み、甲虫の幼虫を食べて育ち、成虫は昆虫の体液等を吸う。					

昆虫	12	H26年	夏	6	種類	トビズムカデ
						
班名	調査日	発見区域				
II	26.7.12	林外の緑道				
特徴	体長10～20mm程度。通年現れる。赤い足や黄色の足。頭部に毒腺あり。咬まれたら医療機関へ。昆虫や小動物を食べる。6～7年生きる。					
雑木林視点	湿った場所の好きな夜行性昆虫。雑木林や山地にも生息する。					

昆虫	13	H26年	夏	7	種類	ノコギリクワガタ
						
班名	調査日	発見区域				
II	26.7.12	B				
特徴	体長30～70mm程度。6～9月に現れる。成虫はクヌギやコナラの樹液を食べる。卵→幼虫→さなぎ→成虫 卵から成虫になるまでは2～3年。					
雑木林視点	コナラやクヌギを主とする雑木林に生息する代表的な甲虫類である。林内の枯損木や腐朽木を繁殖の場として利用している。					

昆虫	14	H26年	夏	8	種類	マメコガネ
						
班名	調査日	発見区域				
I	26.7.12	AB				
特徴	体長5～15mm程度。5～10月に現れる。胸が緑色、翅が茶色の小型のコガネムシ。葉を食べる。土に産卵、幼虫は根を食べる。					
雑木林視点	雑木林の周辺や畑、荒地に生息する。また都市郊外の農地でマメ科植物などを食べる姿も時々見る。					

～秋の森のようす(昆虫)～

昆虫	15	H25年	秋	1	種類	アオバハゴロモ
						
班名	調査日	発見区域				
I	25.9.28	A南				
特徴	体長約10mm。成虫は7～10月。幼虫は白い綿状の分泌物で、枝と共に覆われている。木の樹液を吸う。					
雑木林視点	平地から低山地等、市街地でも見られる。主に照葉樹林内で棲息する。					

昆虫	16	H25年	秋	2	種類	オオスズメバチ
						
班名	調査日	発見区域				
I	25.9.28	B				
特徴	体長は20～50mm、女王バチは大きい。頭部はオレンジ色、胸部は黒色、腹部は黄色と黒色の縞模様。雄バチは毒針を持たない。雑食性。5～10月活動する。					
雑木林視点	樹林地の切株内及び山地の地中に繁殖し生息する。クヌギ等の樹液に集まる。					

昆虫 17 H25年 秋 3 種類 チョウセンカマキリ



班名	調査日	発見区域
I	25.9.28	B

特徴
日本最大のオオカマキリに比べ小さく、前脚の付け根の間が朱色っぽくなっている。体長は60～85mm。8～11月に北海道を除く全国の草地で見られる。

雑木林視点
開けた明るい草地、林縁で見られ、他の昆虫を捕食しながら生息する。

昆虫 18 H25年 秋 4 種類 トカゲ



班名	調査日	発見区域
I	25.9.28	AB

特徴
主に北半球に多く、日本では北海道から大隅諸島に棲息する、20mm程の爬虫類の仲間。トカゲ目スキネク科

雑木林視点
雑木林内にも生息する。

昆虫を見よう

平成25年6月から平成27年3月実施

2 森の中に入っていこう

(7)野鳥を見よう

野鳥を見よう

平成25年6月から平成27年3月実施

野鳥を発見した場所(概要)	調	区分	調査日時	天気・温度	班
	査	調査1	平成26年3月15日9時30分	晴・11度28%	I・II

(注意)
調査地の森では、土地所有者及び市の同意無しに、動植物及び菌類の捕獲、採取、殺傷又は損傷はできません。

鳥	1	H25年	冬	1	種類	エナガ
班名	調査日	区域				
I・II	26.3.15	近隣				
特徴	全長15cm位。小さいくちばしと丸い体に長い尾羽がついていることから、柄の長い柄杓に例えられ、名前に由来する。主に葉の裏についた幼虫等や樹液・果実を食べる。留鳥または漂鳥である。					
雑木林視点	街路樹や平地から山地の樹林内で生息・営巣繁殖し採餌する。シジュウガラ、ヤマガラ等のカラ類の先導となり混群を形成する。					

鳥	2	H25年	冬	2	種類	オナガ
班名	調査日	区域				
I・II	26.3.15	近隣				
特徴	全長35cm位。黒い帽子をかぶり、翼は青く、背は灰色がみられる。尾羽が長く、名前の由来にもなっている。いつも高い所におり、群れで行動する。生活型は留鳥である。					
雑木林視点	屋敷林、社寺林等の高木を中心に生息、繁殖を繰り返す。雑木林への飛来は日中の採餌場として利用している。					

鳥	3	H25年	冬	3	種類	シメ
班名	調査日	区域				
I・II	26.3.15	近隣				
特徴	全長18cm位。雄は全身が茶色系の色彩だが、雌は雄に比べ全体的に淡く、風切羽の一部が灰色。くちばしは短めで太い。くちばしで硬い種子を割って中身を食べる。					
雑木林視点	街路樹や雑木林の落葉広葉樹、ムクノキ、カエデ、エノキ、トウカエデ、ヤマザクラ等の種子を採餌し、生息する。					

鳥	4	H25年	冬	4	種類	シジュウカラ
班名	調査日	区域				
I・II	26.3.15	近隣				
特徴	全長15cm位。黒い帽子に白い頬、胸にたらしめた黒いネクタイがある。木の穴に巣を造り、人工的な狭い穴にもよく造る。主に虫・くも・ハエ・バッタ等を食べる肉食系である。					
雑木林視点	雑木林や公園樹林帯を中心に生息し、採餌場、営巣・繁殖を繰り返す。カラ類の混群で中心的な野鳥。					

野鳥を見よう

平成25年6月から平成27年3月実施

鳥	5	H25年	冬	5	種類	スズメ
						
班名	調査日	区域				
I・II	26.3.15	近隣				
特徴	全長15cm位。雌雄同色。ずんぐりした体型で、頭から背面は茶色の色彩の中で白い頬に黒斑がある。主にイネ・タデ・キク等の小粒状の乾いた種子を食べる。巣は地面近くには作らず、人の身長より高い位置に作る。生活型は留鳥である。					
雑木林視点	市街地、公園、里山等人的の居住地を中心に生息、繁殖をしている。					

鳥	6	H25年	冬	6	種類	ツグミ
						
班名	調査日	区域				
I・II	26.3.15	近隣				
特徴	全長25cm位。日本には全国に冬鳥として渡来し、積雪のない地方の畑地・草地・河原など広々とした背の低い草地に住んでいる。色は個体差があり一様でない。食性は雑食で、昆虫・果実などを食べる。冬鳥である。					
雑木林視点	畑地、草地等と雑木林の林床でも採餌場として利用する。					

鳥	7	H25年	冬	7	種類	ドバト
						
班名	調査日	区域				
I・II	26.3.15	近隣				
特徴	全長35cm位。灰色が普通だが、様々な色や模様がある。食べ物は豆やお米などの種子類を好んで食べるが、雑食性。緑の少ない場所を好んで生息する。留鳥である。					
雑木林視点	明治時代に愛玩、食用等で輸入したものが野生化し市街地の神社仏閣やビル街、河原、農耕地に生息。雑木林には余り見かけない。					

鳥	8	H25年	冬	8	種類	ハシブトカラス
						
班名	調査日	区域				
I・II	26.3.15	近隣				
特徴	全長55cm位。全身が黒色でくちばしは太く、額は盛り上がり、丸みがある。鳴き声は「カーカー」と澄んでいる。食性は雑食で、昆虫や木の実、動物の死骸など、あらゆるものを食べる。留鳥である。					
雑木林視点	様々な場所で見える。市街地、河原、農耕地等を生息地。市街地でゴミをあさる。雑木林では採餌場と繁殖地として利用する。					

鳥	9	H25年	冬	9	種類	ヒヨドリ
						
班名	調査日	区域				
I・II	26.3.15	近隣				
特徴	全長30cm位。雌雄同色。くちばしは黒くて先が尖っている。頭部から胴体は灰色で、頬に褐色が見られる。頭部の羽毛が長く、冠羽となっている。果実や花の蜜を食べる。					
雑木林視点	林や市街地、農耕地、樹林地でも生息する。樹木に営巣し、雌だけが抱卵その間、雄は餌運ぶ。					

鳥	10	H25年	冬	10	種類	ムクドリ
						
班名	調査日	区域				
I・II	26.3.15	近隣				
特徴	全長25cm位。尾の短いズングリ型で、白い顔、黄色いくちばしと足をしている。平野部に生息し、群れで行動する。主にミズ、両生類、昆虫を食べる。					
雑木林視点	市街地、農耕地、河原等で生息、雑木林は採餌場として、営巣は人家の戸袋等を利用する。					

鳥	11	H25年	冬	11	種類	ヤマガラ
---	----	------	---	----	----	------



班名	調査日	区域
I・II	26.3.15	近隣
特徴	全長15cm。腹と背が鮮やかな茶色になっている。山地や低山の林に生息し、冬期は平野部の林にも姿を現す。枝に逆さにぶら下がり宙返りもする。主に昆虫や果実を食べる。	
雑木林視点	山地、雑木林や公園樹林帯を中心に生息、繁殖する。カラ類と共に混群に加わることもある。	

野鳥を見よう

平成25年6月から平成27年3月実施

2 森の中に入っていこう

(8)菌類を見よう

菌類を見よう

平成25年6月から平成27年3月実施

菌類を見た場所	区分	調査日時		天気・温度	班
	調査1	平成25年	6月29日10時	晴・24	I・II
	調査2	平成25年	9月28日10時	晴・24	I・II
	調査3	平成26年	7月12日10時	晴・30	I・II

A区域

B区域

C区域

(注意)
調査地の森では、土地所有者及び市の同意無しに、動植物及び菌類の捕獲、採取、殺傷又は損傷はできません。

菌類	1-1	H25年	春	1	種類	カワラダケ
----	-----	------	---	---	----	-------

班名	調査日	区域
II	25.6.29	B

特徴
枯れ木や弱った木に重なり合って群がって生える。青色・黒色・黄色などの同心円の模様がある。

雑木林視点
雑木林にも発生する。

菌類	1-2	H25年	秋	1	種類	カワラダケ
----	-----	------	---	---	----	-------

班名	調査日	区域
I	25.9.28	ABC

特徴
枯れ木や弱った木に群がって生える。青色・黒色・黄色などの同心円の模様がある。

雑木林視点
雑木林にも発生する。ヒダナシタケ目、多孔菌科の腐朽菌である。

菌類	2-1	H25年	春	2	種類	ヒイロタケ
----	-----	------	---	---	----	-------

班名	調査日	区域
II	25.6.29	B

特徴
広葉樹の伐採樹木、倒木、枯れ枝上に発生。朱紅色だが老いると白っぽくなる。

雑木林視点
雑木林にも発生する。

菌類	2-2	H25年	秋	4	種類	ヒイロタケ
----	-----	------	---	---	----	-------

班名	調査日	区域
I	25.9.28	AB

特徴
春-秋、広葉樹の倒木や枯れ枝に発生する。傘は径6~7cm、朱紅色。硬いコルク質である。古くなると褪色して、白っぽくなる。

雑木林視点
雑木林にも発生する、南方系多孔菌である。

菌類 3 H26年 夏 5 種類 ネンドタケ



班名	調査日	区域
II	26.7.12	B
特徴	通年でコナラなどの広葉樹の切り株や倒木に群生する。傘は半背型。表面は淡褐色又は黄褐色、硬い木質である。	
雑木林視点	コナラ、クヌギ等の広葉樹の枯れ木や枝上に発生する。雑木林でも見られる。	

菌類 4 H26年 夏 2 種類 マンネンタケ



班名	調査日	区域
II	26.7.12	A
特徴	通年でコナラなどの広葉樹の根際や切り株に生える。幼菌時は黄白色で、成長すると半円形で暗褐色になっていく。傘は5～15cm。コルクのような質感。何年もかけて成長することから名がついた。	
雑木林視点	コナラ、クヌギ等を主とする雑木林に発生する。	

菌類 5 H25年 秋 2 種類 タマゴタケモドキ



班名	調査日	区域
I	25.9.28	AB
特徴	夏-秋に広葉樹林等に生える。傘は条線がなく鮮やかな黄色である。ヒダは白色。名前はタマゴタケに似た印象があるが、形態的にはタマゴテングタケに近く、同様に猛毒である。	
雑木林視点	針葉樹、広葉樹の混成林内に発生する。テングタケ科外生菌根である。	

菌類 6 H25年 秋 3 種類 ドウシシタケ



班名	調査日	区域
I	25.9.28	B
特徴	春-秋にブナやマツ林等に生える。傘は釣鐘形から開いて平らになり、径3～15cm程度で表面は灰褐色ないし暗褐色。外観がよく似た種に有毒菌も多い。	
雑木林視点	針葉樹、広葉樹の混成林内に発生する、テングタケ科外生菌根である。	

菌類 7 H25年 秋 5 種類 フクロツルタケ



班名	調査日	区域
I	25.9.28	B
特徴	夏にブナ等の広葉落葉樹などに生える。傘は半球型から扁平に開く。表面は白色から淡褐色、時に亀甲状にひび割れて見えることあり。テングタケの仲間で猛毒である。	
雑木林視点	コナラ、クヌギ等の雑木林に発生する、テングタケ科外生菌根である。	

(1)思い出を大切にしよう ～地域の再発見の旅をしよう～

森のエピソードの舞台		調査歴	区分	調査日時	天気	班
			調査	平成 26 年11月 9日 9時から12時まで	晴	I・II
上水本町の保存樹林に限定したお話ではなく全般的なお話を頂戴しました。						
<p>森の語り手</p> <p>○話された人 加藤 さん(小川町一丁目 在住) 73歳 男性</p> <p>市内の上水本町やたかの台にある森(雑木林)を代々守ってこられた方です。また、農業を始めとして飲食店や不動産経営などもされ活躍されています。</p> 						
思い出を大切にしよう	<p>森のエピソード1</p> <p>昔は手間賃を払い薪や粗朶を取ってきてもらい小売していたが、第2次世界大戦前から戦中にかけて人手が少なくなったので昭和19年に止めました。また、昭和30年代まで、自分たちの生活必需品である薪や粗朶を得るために雑木林を管理していましたが、燃料革命で薪などの必要性も薄れてきました。特に、昭和40年代以降は下草刈りなどの管理もしなくなり、樹木が密集して生え放題になっていたことを覚えています。</p>					
	<p>森のエピソード2</p> <p>山の近くを流れていた新堀用水路に山の粗朶などを敷きつめ堰を作り水遊びをしたり、スイカなどを冷やしたりしていました。 ※60年ほど前(昭和20年代)は、雑木林のことを「山(やま)」と言っていました。</p>					
	<p>森のエピソード3</p> <p>青梅街道の北側を流れている小川用水路の北側には竹林が10間ほどの幅で軒を連ねていました。マダケが多かったことを覚えています。マダケでは色々な小物を作ることができました。青梅街道の南側に流れている小川用水路の更に南側はモウソウチクが多かったです。モウソウチクの方が食べるには美味しかったです。</p>					
	<p>森のエピソード4</p> <p>私が小学校の時、山ではホタルを普通に見ることができました。他にフクロウ、ウグイス、スズメ、イタチ、ウサギ、アオダイショウ、ヒキガエル等はよく見れました。山ではないが、畑では麦を刈った後にヒバリの巣を多く見ることができました。</p> 					
	<p>森のエピソード5</p> <p>山でよく食べたのは、桑の実、サクランボ、ヤマモモ、キイチゴ、モミジイチゴ、アケビでした。</p>					
	<p>森のエピソード6</p> <p>たかの台の小島水車の山には、水車を回すために天井川(てんじょうがわ)という回し掘りを作っていました。回し掘りから新堀用水に戻すのは暗渠(トンネルのこと)でした。私が小学校の時は水車がまだあったことを覚えています。</p> 					
	<p>森のエピソード7</p> <p>小川は宿場町としても発展していました。まんじゅう屋、豆腐屋、油屋、旅館などが周りにあったことを覚えています。中宿通りの中宿とは宿場の真ん中という意味です。</p>					

平成26年11月実施

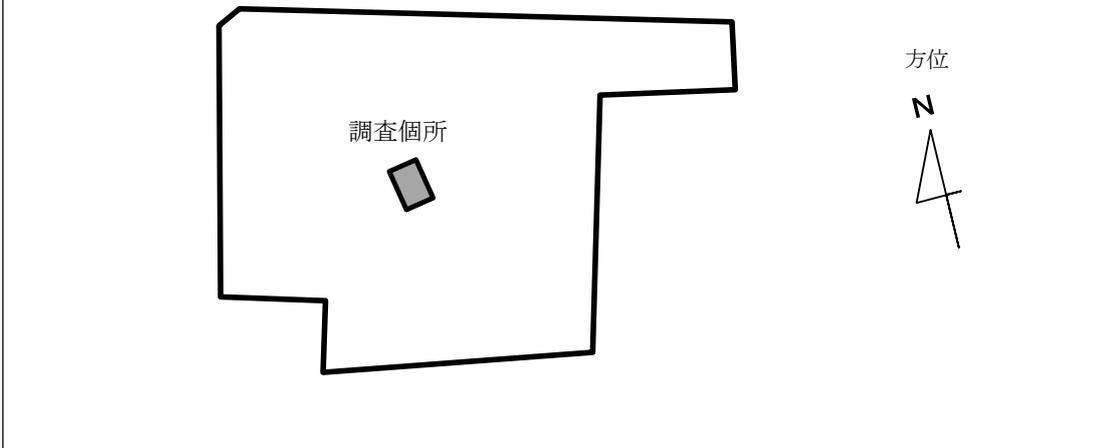
3 森のふれあいを大切にしよう

(2)森を感じていこう

①木もれ日を感じよう

調査	区分	調査日時	天気	班
調査1		平成26年7月12日11時	晴れ	I・II

木もれ日調査場所案内図



○木もれ日調査とは何でしょう。
 雑木林で見られる木もれ日の明るさについて調査をしていく。明るさは、照度計などの計器による計測も大切であるが、木もれ日の明るさの雰囲気は表現しづらいものである。ここでは、気持ちよく感じる木もれ日の計測といった感覚的で個人差がある調査について、あえてチャレンジしてみた。まずは、新緑の季節に太陽がなるべく真上の位置になる時間帯で、木もれ日が気持ちよく感じられる箇所を選ぶ。そこに1平方メートルぐらいの大きさの模造紙を置き、木もれ日が当たっていない樹木や葉の影部分をだまかに着色する。(写真を撮影して、午後の振り返り作業の時にパソコンに写真を取込み、その写真画像にグリッド線といった方眼線を入れて割合を算出する方法もある。今回はこの方法でやってみた。) 1区画全体に対する着色されていない部分の割合を目視によりだまかに決め、全区画の平均値を出すことで木もれ日の情報として蓄積していく。

○具体的な方法

- *1 こもれ日の気持ち良いイメージの場所を雑木林調査隊で話し合って決める。
- *2 模造紙の天地を方位計の南北線に合わせる。
- *3 決定した場所の近くのブロック角などのある程度固定された目印2カ所から模造紙の角(任意の1箇所)までの距離を測っておく。このことで、次回同じ場所で復元して調査ができるようになる。
- *4 決定した場所の、温度や照度などを計測する。
- *5 決定した場所の写真撮影する。撮影箇所の遠景と近景、撮影場所に立って、東西南北の上空の写真を撮影することで当日のイメージを画像で記録しておく。
- *6 決定した場所に段ボールを置く。
- *7 段ボールの上に模造紙を置き、何班かに分けて影を記録する。(影の輪かくだけを鉛筆で黒く塗る。)時間の経過で影は刻々と変化するので速やかに記録すること。今回は、上部から木もれ日の写真を撮影し、午後の振り返り作業でパソコン処理して割合計算する方法で行った。
- *8 終了時に集合写真を撮影する。
- *9 地域センターなどの調査ベースに戻ってから振り返り作業を行う。模造紙を適当に分割して、影の縁内を鉛筆で黒く塗る。1コマの何割が影か目視で割合を出し、1コマごとにエクセルで集計する。今回は45頁のようにパソコンに取り込んだ画像上にグリッド線といった方眼線を加し、画像を見ながら1コマずつ影を判定していく。
- *10 全体の影の割合を集計する。100%から影の割合を差引いた数値が、小平風の「気持ちよく感じる木もれ日率」となる。

木もれ日を感じよう

平成26年7月実施

(調査作業)



さあ～どこにしよう
かな～



段ボール敷いて、方位
を北に合わせて



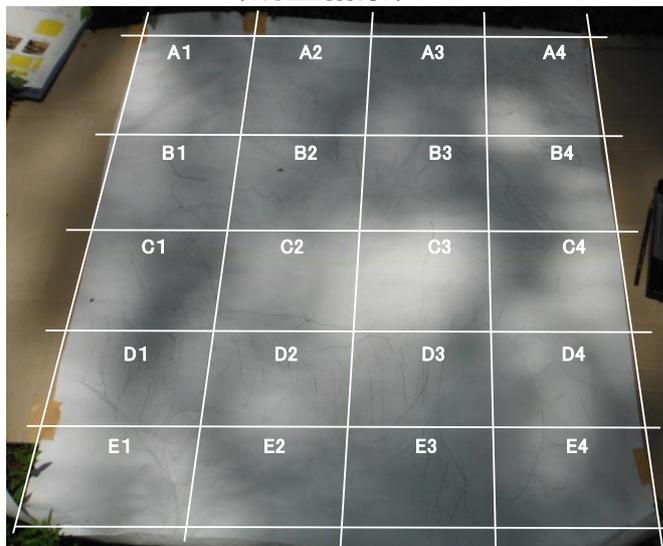
北側を向いて、写真
撮影しましょう。



こうしよう。
あ～しよう。



(調査結果)



(目視による集計作業)

振り返り作業で、写真をパソコンに
取込み、写真の上にグリッド線(方
眼線)を描き区域を区分する。

木もれ日を感じよう

平成26年7月実施

○結果を入力して「木もれ日率」を算出してみましょう。

調査日	平成26年7月12日	時間	11時	天気	晴れ	風	あまりなし
温度	30度	湿度	61%				

全体のコマ数(A) 20

区分	1	2	3	4	合計
A	0.6	0.9	0.9	0.7	3.1
B	0.9	0.9	0.7	0.7	3.2
C	0.7	0.6	0.2	0.4	1.9
D	0.5	0.6	0.8	0.7	2.6
E	0.4	0.6	0.9	0.8	2.7
合計	3.1	3.6	3.5	3.3	13.5

何人かで、区画B4を見て影の割合を目分量で計測した結果、1コマ中、0.7コマが影であったということ。

「木もれ日率」は 32 %

(算式)

$$\text{影割合 } 13.5 \text{ コマ} \div 20.0 \text{ コマ} = 0.675 \approx 68\%$$

$$\text{木もれ日率 } 100\% - 68\% = 32\%$$

木もれ日を感じよう

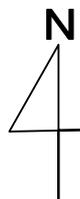
木もれ日の空～
調査地の上空を撮影



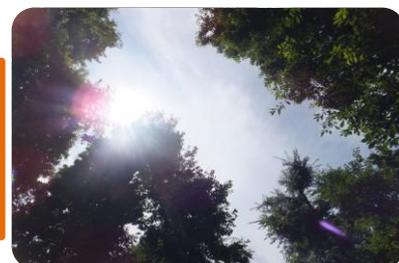
北の空



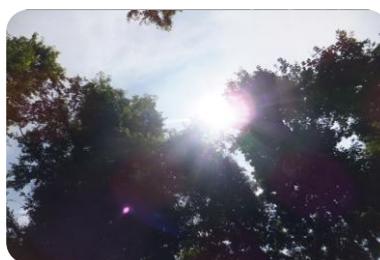
西の空



東の空



南の空



平成26年7月実施

3 森のふれあいを大切にしよう

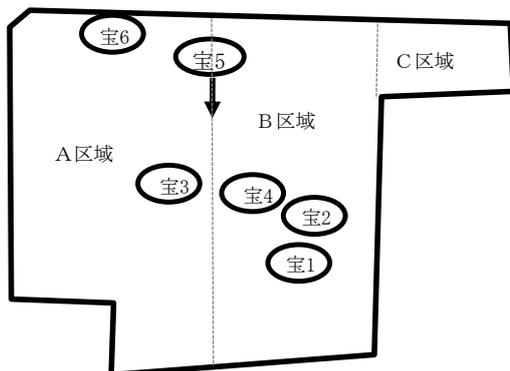
(2) 森を感じていこう

② 森の宝物を発見しよう

森の宝物を発見しよう

平成25年6月から平成27年3月実施

調査歴	区分	調査日時	天気・温度	班
調査1		平成25年9月28日11時	晴・24	I・II
調査2		平成25年12月15日10時	晴・8.6度	I・II
調査3		平成26年5月17日10時	晴・25度・34.1%	I・II



区分	内容	調査日	特徴	発見場所	周りの状況
宝物1	セミの抜けガラ	1	毛が多め。大きい。お腹の先が膨らんでる。	B区域南側	目の高さぐらいで風にゆれる不安定な葉にしがみついていた。
宝物2	セミの抜けガラ	1	宝物1より小さめ。体につやがあり。	B区域	B区域にあったが状況は、はっきりとしない。
宝物3	森の空1	2	雲ひとつない晴天であった。	A地区	森の中央部西側から上空を見上げて撮影した。
宝物4	森の空2	2	昨年剪定された個所は、林床まで光が届く。	B地区	森の中央部東側から上空を見上げて撮影した。
宝物5	森のじゅうたん	2	木もれ日模様の日差しが南東からさしている。	AB地区	北側から撮影した。落ち葉で埋め尽くされた。
宝物6	働き者のハチ	3	カタバミの花が、いっぱい咲いていた。	A地区	北側の日当たりが良い場所であった。

宝物1 セミの抜けガラ



アブラゼミの抜けガラかな

宝物2 セミの抜けガラ



ヒグラシの抜けガラかな

宝物3 森の空1



剪定された枝と雲ひとつ無い空

宝物4 森の空2



管理された森は林床まで光が届く

宝物5 森のじゅうたん



木もれ日模様のじゅうたんはフワフワしている

宝物6 働き者のハチ



カタバミの蜜をチュー

3 森のふれあいを大切にしよう

(2)森を感じていこう

③森の音を聞いてみよう

調査	区分	調査日時	天気・温度・湿度
	調査1	平成26年5月17日11時30分	晴・25度・34.1%

これは、雑木の森の音を身体で感じてみようというプログラムである。日頃、情報機器や街並みの雑音の中で生活している我々は、雑木の森の息づかいを感じづらい生活をしている。5分間で良いので、耳を研ぎ澄ませて音を聞いてみよう。小鳥のさえずりや風の声、葉の音などを言葉にしてみよう。

(ルール)

- ①何を見つけても声に出さない。
- ②ジェスチャーで会話する。
- ③鳥や昆虫の場合は刺激しないように近寄る。
- ④音を記録したり、映像を簡単に記録する。



森の音を聞いてみよう

平成26年5月実施

聞こえたもの
鳥の鳴き声(スズメ→チュンチュン)
鳥の鳴き声(ヒヨドリ→ピヨピヨ)
鳥の鳴き声(ハト→クックー)
鳥の鳴き声(ウグイス→ホーホケキョ)
鳥の鳴き声(カラス→カアカア)
鳥の鳴き声(シジュウカラ→ツツピーツツピー)
鳥の鳴き声(オナガ→ギャアギャア)
風の声(枝や葉を通り抜ける音)
葉のささやくような音(葉ずれの音)
立木から伝わる近くの工事振動音
車の音



4 森の歴史 (番号:1 代表所在地:小平市上水本町2丁目1281番1)

この森の周辺や東京に関係する主要な歴史を記録してみた。

年代	時代	内 容
慶長初め頃	江戸	青梅街道、五日市街道が通じる。
慶長 8年 (1603年)	江戸	徳川家康、江戸幕府を開く。
承応 3年 (1654年)	江戸	玉川上水ができる。
明暦元年 (1655年)	江戸	野火止用水ができる。
明暦 2年 (1656年)	江戸	小川九郎兵衛、小川(現在の、たかの台、小川町1・2丁目、小川東町、小川西町、栄町)の開拓を願い出る。
明暦 3年 (1657年)	江戸	五日市街道沿いに砂川用水ができる。
宝永元年 (1704年)	江戸	熊野宮、一本榎の下に祭られる。
享保7年 (1722年) から 享保9年 (1724年)	江戸	この森は江戸時代に新田開発された小川新田の区域内にある。小川新田は、享保7年(1722年)9月、小川村名主、市郎兵衛とその子、弥市、神明宮の神主宮崎主馬が「一本榎」のところまで開発を願い出て、享保9年(1724年)5月に許され開墾が始まった。この新田開発地が「小川新田」であり、現在の上水新町、上水本町の一部、喜平町、学園西町、学園東町、仲町を含めた区域である。
元文 4年 (1739年)	江戸	平安院が建てられた
慶応 3年 (1867年)	江戸	大政奉還が成立した。
明治元年 (1868年)	明治	「江戸」が「東京」と改まった。
明治 3年 (1870年)	明治	新堀用水ができた。
明治 5年 (1872年)	明治	今の小平の全地域が神奈川県に編入された。
明治の初め～中頃	明治	この頃に作成されたとされる「小川新田字上水向」という古地図では、この森の地番の脇に「山林」と記載されておりこの時代にも林だったことが推測される。
明治22年 (1889年)	明治	小平村が誕生した。
明治26年 (1893年)	明治	小平村も含めた三多摩が東京府に編入した。
明治27年 (1894年)	明治	川越鉄道(現在の西武国分寺線、国分寺から久米川)が開通した。
大正12年 (1923年)	大正	関東大震災があった。
昭和 2年 (1927年)	昭和	西武鉄道(現在の西武新宿線、高田馬場から東村山)が開通した。
昭和 3年 (1928年)	昭和	多摩湖鉄道(現在の西武多摩湖線、国分寺から萩山)が開通した。
昭和 6年 (1931年)	昭和	女子英学塾(現在の津田塾大学)が小平に移転した。
昭和 8年 (1933年)	昭和	東京商科大学予科(現在の一橋大学小平国際キャンパス)が小平に移転した。
昭和14年 (1939年)	昭和	第2次世界大戦が始まった。
昭和18年 (1943年)	昭和	東京都制施行、「東京府」が「東京都」となった。
昭和19年 (1944年)	昭和	「小平村」が「小平町」となった。
昭和20年 (1945年)	昭和	東京大空襲(3月11日)があった。終戦(8月15日)をむかえた。
昭和37年 (1962年)	昭和	「小平町」が「小平市」となった。
昭和50年 (1975年)	昭和	この森が保存樹林に指定された。
昭和59年 (1984年)	昭和	平櫛田中館(現在の平櫛田中彫刻美術館)が開館した。
昭和61年 (1986年)	昭和	中央公園が開園した。
昭和62年 (1987年)	昭和	上水本町地域センター開所した。
平成 7年 (1995年)	平成	ふれあい下水道館が開館した。

*歴史については市民便利帳の「小平市年表」、小平市立図書館ホームページの「子ども郷土資料」、小平町誌年表、小平市30年史年表等を参考に作成した。

5 森のカルテづくりに関わっていただいた皆さま（番号:1 代表所在地:小平市上水本町2丁目1281番1）

(1)小平市森のカルテづくりアドバイザー

	アドバイザー氏名	所 属
1	椎名 豊勝	一般社団法人日本樹木医会会長
2	山田 眞久	NPO法人東京どんぐり自然学校理事長

(2)第二次雑木林調査隊のメンバー

	調査委員氏名	隊員期間
1	秋田 良吉	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
2	安部 陽一郎	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
3	石井 佳男	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
4	金丸 育子	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
5	小林 清	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
6	小原 秀夫	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
7	坂本 一夫	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
8	桜井 秀雄	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
9	白井 進	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
10	田中 稔	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
11	富澤 克禮	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
12	長谷川 正孝	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
13	長谷部 裕治	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
14	広島 晃一	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
15	星 貴美子	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
16	水村 光男	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
17	三田 晴美	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
18	横井 正豊	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
19	吉田 勝恒	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
20	吉田 嘉文	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
21	吉田 恵吏子	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日
22	和田 元治	平成25年6月18日 ～平成27年3月31日

(3)第二次雑木林調査隊の森の調査活動

調査活動内容と調査参加者	
第1回	平成25年6月29日(土) 歩測による雑木林面積算出・野草調査
	I 班 安部・金丸・坂本・桜井・長谷川・広島・星・水村・横井・吉田(勝) II 班 秋田・石井・石原・白井・田中・長谷部・三田・吉田(嘉)・和田
第2回	平成25年9月28日(土) コドラートの選定設置・樹木調査・宝物探し
	I 班 秋田・小林・田中・富澤・長谷川・広島・星・吉田(嘉)・和田 II 班 坂本・白井・長谷部・水村・三田・横井・吉田(恵)
第3回	平成25年12月15日(日) コドラートの再確認・毎木調査・萌芽の剪定
	I 班 小林・小原・坂本・田中・長谷部・水村・三田・横井 II 班 秋田・安部・桜井・富澤・広島・星・吉田(嘉)・和田
第4回	平成26年3月15日(土) 野鳥観察・毎木調査・萌芽の観察
	I 班 安部・金丸・小原・富澤・長谷部・星・三田・横井・和田 II 班 秋田・小林・坂本・白井・田中・長谷川・水村・吉田(嘉)
第5回	平成26年5月17日(土) 野草調査・萌芽の観察・森の音を聞いてみよう
	I 班 秋田・小林・坂本・桜井・白井・長谷川・広島・吉田(嘉) II 班 安部・金丸・田中・富澤・星・水村・三田・和田
第6回	平成26年7月12日(土) 萌芽の観察・木もれ日調査
	I 班 桜井・田中・長谷部・星・三田・和田 II 班 秋田・小林・富澤・長谷川・横井・吉田(嘉)
第7回	平成26年11月9日(日) 思い出調査
	班 分 安部・金丸・小林・白井・田中・富澤・長谷部・広島・星・ けなし 水村・横井・吉田(嘉)・和田
第8回	平成27年1月17日(土) 調査全期間の振り返り・現地確認
	班 分 秋田・安部・小林・坂本・桜井・白井・田中・富澤・長谷川・ けなし 広島・長谷部・星・水村・横井・吉田(嘉)・和田

森のカルテ 上水本町保存樹林編

平成27年9月発行

発行 小平市環境部水と緑と公園課

所在 〒187-8701
東京都小平市小川町二丁目1333番地

電話番号 042-346-9830

電子メール koen@city.kodaira.lg.jp

¥600

この冊子は再生紙を使用しています